

Tohoku University Science Cafe



やさしく学べます。旬のサイエンス。
～暮らしの合間に科学のエッセンス。

東北大学サイエンスカフェ

2008
後期
プログラム

市民の方、中高生、大学生、社会人の方、親子での参加大歓迎！

市外開催分は参加申込みが必要です。(参加費無料)

第39回 | 2008.10.24金
会場 石巻市イオン石巻
ショッピングセンター“緑の広場”
時間 16:30～18:15
伝統芸能をデジタルで伝える
—300年の伝統とCGの出会い—
◎渡部 信一(東北大学大学院教育情報学研究所教授)
後援: 石巻市、石巻市教育委員会

第42回 | 2008.12.12金
会場 白石市白石中央公民館
時間 16:30～18:15
複葉翼でサイレント超音速機を作る
◎大林 茂(東北大学流体科学研究所教授)
後援: 白石市、白石市教育委員会

第45回 | 2009.3.27金
会場 大崎市リオーネふるかわ(予定)
時間 16:30～18:15
自然のすごさを賢く活かす!
ネイチャー・テクノロジー
◎石田 秀輝(東北大学大学院環境科学研究所教授)
後援: 大崎市、大崎市教育委員会

第40回 | 2008.11.21金
池や湖で
毒素ができていくことを
知っていた?
～飲料水源と有毒アオコ～
◎彼谷 邦光(東北大学大学院環境科学研究科教授)

第43回 | 2009.1.30金
音が出てくる、
ダンス細胞がある
不思議な私たちの耳!
◎和田 仁(東北大学大学院工学研究科教授)

第41回 | 2008.12.5金
スペシャル版 JST-RISTEX*と共同開催
うまくやってる?人とまちと科学技術と
◎五十嵐 太郎(東北大学大学院工学研究科准教授)
◎平川 秀幸(JST-RISTEX研究開発プログラム研究代表者、
コーディネータ 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)
◎長神 風二(東北大学脳科学グローバルCOE
脳神経科学を社会に還元する教育研究拠点特任准教授)
*JST-RISTEX:科学技術振興機構社会技術研究開発センター

第44回 | 2009.2.27金
「触感」を科学する
～触覚感性を最先端技術で計測する～
◎田中 真美(東北大学大学院医工学研究科教授)
特別ゲスト
川副 智行氏((株)資生堂 主任研究員)

会場 せんだいメディアテーク
1階オープンスクエア
時間 18:00～19:45(17:30開場)
参加費 無料(事前申込は不要です)



[参加申込方法]
仙台市外での開催分(第39回、第42回、第45回)に参加ご希望の方は、ファックスまたはメールで、「開催日」「開催市名」を明記し、氏名・年齢・連絡先電話番号をご記入の上、開催日の2週間前までお申込ください。
ファックス: 022-217-4818
メール: scafe@tohoku.ac.jp

[お問い合わせ]
東北大学広報課 tel.022-217-4977
<http://cafe.tohoku.ac.jp/>

*テーマ・講演者については都合により変更となる場合があります。



Science Café

「サイエンスってむずかしい」、「質問したいことがあるけれども誰に聞いたらよいかわからない」

サイエンスカフェとは、そう思っている人たちと科学者が、

コーヒーカップを片手にサイエンスについて気軽に話し合い、サイエンスの楽しさと社会貢献の姿を知ってもらう場です。

最初に、取り上げた話題に関する最新の研究成果を一人の講演者が分かりやすく紹介します。

次に、ラウンドテーブル毎のトークタイムとして、それぞれのテーブルに東北大学の学生・教員がファシリテーターとして参加し議論します。

最後は、全体的な質疑応答の時間とし、ラウンドテーブルでの議論で出た質問に講演者が答えます。

Scientist Profile



わたべ しんいち
渡部 信一

東北大学大学院教育情報学研究所教授

渡部教授は、「デジタルを使って、アナログを考える。」ことをテーマに研究しています。コンピュータ、インターネット、ロボット、モーションキャプチャなどのデジタル・テクノロジーを活用することにより、人間のアナログな側面、特に「教える・学ぶ」という行為について探求しています。



かや くにみつ
彼谷 邦光

東北大学大学院環境科学研究科教授

彼谷教授は環境科学分野の中で環境汚染物質の生体内挙動や有毒藻類の毒素の研究などで多くの現象やメカニズムを明らかにしてきました。10年くらい前から、環境保全・改善技術の開発を目的として「分子鑄型プロジェクト」や「藻類炭化水素利用プロジェクト」を進めています。



おおばやし しげる
大林 茂

東北大学流体科学研究所教授

大林教授は、航空宇宙工学や機械工学の分野で流れのシミュレーションと設計への応用を専門にしています。航空宇宙学会、流体力学会、計算工学会の理事や、文部科学省航空科学技術委員会委員を務め、中でも航空宇宙学会では「サイレント超音速旅客機研究会」を立ち上げ、日本の超音速機研究推進に努めています。



わだ ひろし
和田 仁

東北大学大学院工学研究科教授

和田教授は、元々の専門は機械工学の振動でしたが、お子さんが3歳の時の中耳疾患以来、聴覚に興味を持ち、研究を続けています。これまで、聴覚の生理的および工学的見地からの研究、具体的には内耳増幅機構・外有毛細胞の可動性・耳音響放射・中耳機能の解明・診断装置の開発等に從事されております。



たなか まみ
田中 真美

東北大学大学院医工学研究科教授

田中教授は、自分の手の不器用さから器用な手の実現に憧れて、ロボットフィンガの開発に興味を持ち、バイオメカトロニクスの研究を続けています。触覚感性計測システムでは、触覚センサ、センサを動かすロボット機構、信号処理法についてヒトの触覚の特長を生かしたもので、プロの手に代わるものを提案しています。



いしだ ひでき
石田 秀輝

東北大学大学院環境科学研究科教授

石田教授は、2004年(株)INAXを経て現職、ものづくりのパラダイムシフトに向けて国内外で多くの発信を続けています。特に、2004年からは、自然のすごさを賢く活かすあたらしいものづくり『ネイチャー・テクノロジー』を提唱、また、環境戦略・政策を横断的に実践できる社会人の人材育成や、子供たちの環境教育にも積極的に取り組んでいます。



い が ら し た ろ う
五十嵐 太郎

東北大学大学院工学研究科准教授

五十嵐准教授は、都市・建築理論を研究し、建築物を街や社会を創り上げるひとつの要素として捉え、都市や景観についての批評を展開されています。2008年9月に開催されるヴェネツィア・ビエンナーレ建築展では、日本館のコミッショナーも務めています。



ひらかわ ひでゆき
平川 秀幸

JST-RISTEX研究開発プログラム研究代表者、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授

平川准教授は、目覚ましい科学の発展によって社会との間に起きている諸問題(例:遺伝子組換作物論争)について、「市民」が議論に参加するために必要な仕組みや、彼/彼女らの意見を政策決定に反映する方法について研究を行っていると同時に国や地方自治体の審議会の委員などもされています。

ながみ ふうじ
長神 風二

東北大学脳科学グローバルCOE脳神経科学を社会に還流する教育研究拠点特任准教授

長神准教授は、科学と社会との間をつなぐための、イベントや展示などの制作に携わるサイエンスコミュニケーターとして活動し、現在は、東北大学の脳神経科学のプログラムに広報・コミュニケーション担当として参画しています。